

# 2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 5	福山市立川口小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月15日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が授業や特別活動の各場面で自分の考えていることや自分の頑張っていることを表現する場があり、一人一人が認められている。</li> <li>児童生徒が主体的に学びに向かうように教師が熱心にサポートしている。</li> <li>具体的な評価指標を検討し、家庭や地域と連携を図りながら効果的に取り組んでいくとよい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と話し合ったり学び合ったりすることに楽しさを感じている。</li> <li>縦割り班活動や委員会活動では、児童生徒の企画立案により異学年交流をすることで、自己肯定感が高まっている。</li> <li>知識や技能の習得が十分ではなく、特に言葉や数の理解と表現することに課題がある。</li> </ul>	<p>育成する力 質・効</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として 統一した取組等</p>	<p>課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒</li> <li>様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒</li> </ul> <p>○ 学習指導要領に立ち返り、知識技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践し、協議を継続する。</p> <p>○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。</p>
--	--	--	---

## III 自校

<p>ミッション</p> <p>お互いを尊重し、組織(学校、地域)の中で協働しながら、自分自身とその家族を大切に、子どもたちとともに失敗を恐れず、チャレンジし、人間味あふれる自分のビジョンを語れる教職員のもとで、児童がつながり、「元気」「挑戦」「思いやり」の心を育てる。</p>	<p>育成する 質・効</p> <p>めざす 子ども像</p> <p>課 対 認</p>	<p>課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)</p> <p>「児童・学校・地域」とのつながり(人、もの、心)を大切にする児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いに支え合い、挑戦し続けよう</li> <li>互いに協力し合い、元気や喜びを味わおう</li> </ul>
<p>学校教育目標</p> <p>つなぐ ～元気・挑戦・思いやり～</p>		
<p>現状</p> <p>&lt;児童・学校・教職員&gt;</p> <p>○教職員の連携を密にし、組織で対応することで、児童が落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。</p> <p>○国語科を中心に、授業研究を進めることで、子ども主体の学習が進んでいる。</p> <p>○教職員が仕事にやりがいを持ち、元気に勤務できる職場環境である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学力(特に算数)の課題が継続している。</li> <li>●いじめにつながる事案が多く、お互いを尊重し合う集団づくりに取り組む必要がある。</li> </ul> <p>&lt;地域・家庭&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育推進に協力的である一方で、児童よりも保護者対応に苦慮する場面も多くなる。警察、家庭センター等の連携が多い。</li> <li>・地域との連携に課題がある。</li> </ul>	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>自ら学びをつなぐ児童の育成 ～個々の見方・考え方を活かした授業づくり～</p> <p>児童自身が「教材と自分」「仲間と自分」「学習したことを次の学びへ」つなぐことで、本質的な問いに迫り、見方・考え方を広げたり、深めたりして深い学びにつなげていく。</p> <p>めざす授業の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教材とこれまでの学びをつなぐ これまで学んだこと(知識・技能)を総動員し、解決に向けて考える姿を引き出す</li> <li>2. 仲間と自分の考えをつなぐ 自分の考えや集団としての学びを深める姿を引き出す</li> <li>3. 学習した見方・考え方を次の学びにつなぐ 仲間とよさを分かち合い、自ら次の学びにつなぐ姿を引き出す</li> </ol>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立川口小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	7割以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状況	7割以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	自ら学びをつなぐ児童の育成	★	継続	学び合うことができる児童の育成	①仲間と自分の考えをつなぐために「つなぎ言葉」や「あいづちあいいうえお」を使って対話の質を高める。	児童アンケートにおいて、「話し合い活動を通して、自分の考えを広げたり、授業が分かったと実感したりすることができた」と回答する児童の割合を85%以上にする。	児童アンケートにおける肯定的回答：87% ・どの教科でも話し合い活動を積極的にを行い、友達と考えを共有することで、自分の考えを広げたり、理解を深めたりすることができるようになってきた。 ・くすのきタイム(帯タイム)では、様々なつなぎ言葉が書かれた「チャレンジカード」を見ながら話し合いを行った。しかし、授業で「つなぎ言葉」を使って仲間と自分の考えをつなぐ児童は少ない。	3	3	①ICT機器を効果的に用いて、児童の多様な考えを共有したり、視覚的にとらえたりすることで、自分の考えを広げられるようにする。 ②「チャレンジカード」を継続して活用し「つなぎ言葉」の有用性を実感させることで、自然と用いることができるようにする。そうすることで、自分と友達の考えを比べたり、理解を深めたりできるようにする。	児童アンケートにおける肯定的評価：88.8% ①児童の考えを共有する際に、ICT機器を効果的に用いて、友達の考えと自分の考えを比較しながら考えることができた。また、自分の考えと友達の考えをつなぎながら学習する姿も見られてきた。 ②帯タイムの話し合い活動において、繰り返し「つなぎ言葉」を使うことで、授業の中で自然とつなぎ言葉を使う児童が増えた。	3	4	4	時や場、相手を問わず対話が成り立つような授業や話し合い活動を目指し、話型や話し合いの型を提示する必要がある。
2	自ら学びをつなぐ児童の育成	★	継続	自他ともに認め合える児童の育成	①授業や日々の生活の中で児童同士が認め合える活動を設定する。 例・帯の会にきらきらタイムを行う ・共感しながら相手の話を聞く ・合意形成の場を設定する ②定期的に研修を行い、指導力向上を図る。	児童アンケートにおいて、「友達や周りの人の考えを大切に、協力しながら課題解決に取り組んでいる」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・共感的な聞き方や合意形成について、児童が具体的なイメージを持っておらず、十分な活動につながっていない、という課題がみられた。	3	3	①「共感的な聞き方」「合意形成」等、抽象的な概念について研修を通して理解を深める。 ②日々のこと(たち)の姿をもとに意見交流を行い、指導する視点の共有や児童理解に向けた観察力の向上を目指す。	児童アンケートにおける肯定的評価：91.0% ①教職員による模擬学級会を職員研修で行った。体験を通して共感的な聞き方や、合意形成についての理解を深め、指導力の向上につなげることができた。 ②部会や学年主任会を起点にし、学年会で児童の様子を課題と捉え、交流する場を設けた。様々な角度からの児童理解につなげることで、観察力の向上を図ることができた。	3	4	4	共感的な聞き方や合意形成、観察力の向上について、教師の理解を深めることができた。 児童同士の認め合いや共感的に聞く姿の向上に向けて、取り組みを拡大・深掘りしていく必要がある。	
2	自ら学びをつなぐ児童の育成	★	継続	体力向上に向けて自己決定する児童の育成	①休憩時間や体育の授業で運動量を確保し、児童が自身の課題や技能に合わせて選択できる活動の場を設ける。	児童アンケートにおいて、「自分の体力の向上を実感することができた」と回答する児童の割合を85%以上にする。	児童アンケートにおける肯定的回答：85.3% 評価指標の達成に向けて、3つの取組を行った。 ①児童の実態把握 ②身体能力に合わせた運動や場を設定 ③体力の向上を実感できるような振り返り その結果、提示された運動や場の中から、自分の能力に適したものを自ら選ぶことができるようになってきた。しかし、授業外で自分の体力について深く考えたり、運動したりする児童は少ない。	3	3	①体力テストの結果をもとに、今の自分に足りない力や伸ばしたい力は何かを考える場を設ける。 ②体育委員を中心に体力向上の取組の場を休憩時間に設定し、自分に合った運動を選択できるようにする。	児童アンケートにおける肯定的評価：85.9% ①1人1人の体力テストの結果をスプレッドシートで示し視覚的に捉えやすくしたことで、あとのくらいで点数が上がるのか、自分が伸ばしやすい項目はどれかを考えることができた。 ②週に数回、体育委員を中心に休憩時間に運動ができる場を設定し、体力テストの結果とも関連付けながら自分に合った場を選択することができた。	3	4	4	学期に1回、自分に合った運動を選択できる場の設定を継続していくことで、子どもたちの運動を習慣化できるようにしていく。また、どんなところで苦手を感じているかを分析し、それに合った運動の場を設定したり、授業内でみんなが楽しく運動量を確保できる時間を増やしたりしていく。

3	教育公務員としての専門性及び規範意識をもった教職員	継続	①仕事にやりがいを持ち主体的に業務に取り組む教職員の育成 ②地域とつながり、協働的に子どもを育てる学校づくり	①主任主事を中心に、企画委員会や業務内容の見直しを行ったり、学年会を設定しコミュニケーションの機会を確保したりする。 ②学習内容や活動の目的に応じて、民生委員や体育会、図書ボランティアや老人会等と連携を取りながら様々な活動を設定する。	①教職員アンケートにおいて「やりがい」を感じることができたと回答する教職員の割合を90%以上にする。 ②教職員アンケートにおいて「地域」の人と触れあえる機会を持っていると答える教職員の割合を80%以上にする。	①教職員アンケートにおける肯定的評価率は100% ②教職員アンケートにおける肯定的評価率は60% 昨年度の34.8%からは向上しているが、継続した取り組みが必要である。	3	3	①取組を継続する。 ②学校の実態を地域に相談する機会や取組に関する情報を積極的に発信したりすることで、共通の目的を持って学校と地域が双方向から子どもの成長を見守ることができるようにする。	①主任主事を中心に、各部や学年において適切に声掛けや業務の進捗管理を行うことで、教職員のストレスの軽減を図ることができている。 ②民生委員ジュニアの育成事業やふれあい祭り、総合的な学習や社会科における地域交流など、多くの機会を得ることができている。	3	4	3	教職員の意見を反映させながら、教科担任制の拡充や生徒指導体制の充実を図ることで、一層動きやすい職場づくりを行う。 地域の方に協働しながら児童の育成を進めることができるよう、児童実態の共有に努める。
---	---------------------------	----	---	--	---	--	---	---	--	---	---	---	---	---

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。